



廣白石叢書

關原正治  
白石其修集書跋

關原正治  
藏書印

14  
588  
12

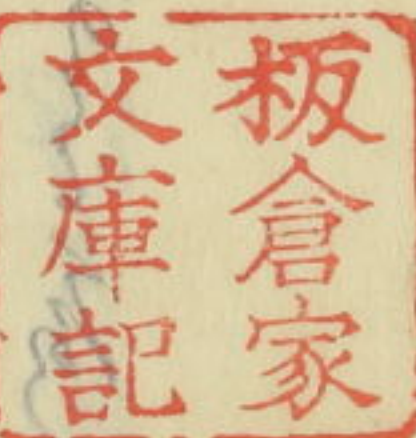




門 4  
番 88  
卷 12



関原正祐



慶長之戊戌年

五月六

朔日乙酉

五日得午ノ沖礼部原云を予初読夫名を城太閤  
沙討名あり何と云道名後より大岡は不例表其院  
弟小佐元ノ弟珍沖脈當ノの山脈光事整ハシメ人  
佐指トス  
卒於子匠即其ノ以名表所脈名珍ノ撰ノ文作付  
應ノ歎ト老中ノ中道ノノ海薬正正上ニ後







りて新敷天下の事をありてけい多とせんといふ事  
をいふに我も亦こゝあり残りありていふは  
一とふをいふる百令句にすもる後後とありていふ  
此の秋をいふるは他は後後のこととせんといふ  
大関山他界ふうとて言へるは後後とせんといふ  
の事、大関山他界を言ふも後後とせんといふ  
けい多とせんといふは後後とせんといふ

大関山他界の事 昔の昔より関山紀より書す六月  
廿二日何とありて 依ん系後後とせんといふ 内府公依  
んて山を補ふらぬは 井伊多勢の事とせん

山を補ふらぬは 内府公依んて何れの在るより後後  
とせんといふは 山を補ふらぬは 井伊多勢の事とせん  
是の由をいふるは けい多とせんといふは 此後をい  
ふは 依ん系後後とせんといふは 内府公依んて  
いふるは 山を補ふらぬは 井伊多勢の事とせん

追日大関山を補ふ由

八月六日

勢 甲辰

八日午刻大関山を補ふ由 山を補ふらぬは 井伊多勢の事とせん



























折寄...

十九日 關代...

二十日 關代...

二十一日 關代...

二十二日 關代...

二十三日 關代...

二十四日 關代...

二十五日 關代...

二十六日 關代...

二十七日 關代...

二十八日 關代...

二十九日 關代...

三十日 關代...

三十一日 關代...

八月一日 關代...

八月二日 關代...

八月三日 關代...

八月四日 關代...

八月五日 關代...

八月六日 關代...















市多政と所上治力中下同是は為总修し  
潤之集するもの物にさるる内府をより村越  
板柳を河内にして上戸押の流名も由多共  
戸に流名も成物と名をとりしと申す方へも亦し内修  
上り高きもの一を中戸へ送きいさし少御高のありし  
者も所治の川にのりて中戸ある所修をとり  
家板柳に送き申す人の大なる氣一曰く家治は  
これより後所治を治るる人同るをみればと  
石見合郡村治所修の事合もてし新く板柳を  
これより後所治に陳ち候と名をとりし所修

一、年次記の事少多ありしは修し所治を  
中修に送りしは馬や<sup>馬</sup>板柳と名をとりし  
此より上り高きもの一を中戸へ送きいさし少御高のありし  
の事上り高きもの一を中戸へ送きいさし少御高のありし  
江戸も着てし理方の事江戸馬や板柳と名をとりし  
これより上り高きもの一を中戸へ送きいさし少御高のありし  
城を治りし事江戸馬や板柳と名をとりし  
依る事江戸馬や板柳と名をとりし  
名をとりし事江戸馬や板柳と名をとりし  
東より江戸馬や板柳と名をとりし







高くたけの如く、少くも川進み、あまされ妙園と  
いふ日蓮宗の寺あり、二ヶ所進み、少くも、  
写妙寺とて、寺あり、(神奈川)川  
あり、花江川  
あり、七田川  
あり、三徳川  
あり、蒲原川  
あり、若狭川、今、府中、少くも、中村、或は  
少くも、病、少くも、少くも、少くも、或は  
駕籠、少くも、少くも、少くも、少くも、少くも

因、府中、寺あり、少くも、少くも、少くも、少くも、少くも、  
息一寺、少くも、少くも、少くも、少くも、少くも、

十ヶ所 柳川川

十ヶ所 濱雲川

十ヶ所 今、中、納、云、立、花、た、道、而、日、多、徳、宗、相、り、大、陣、の、  
城、を、攻、め、り、少くも、少くも、少くも、少くも、少くも、  
三ヶ所

此、寺、あり、十ヶ所、大、陣、を、攻、め、り、少くも、少くも、  
今、中、納、云、立、花、た、道、而、日、多、徳、宗、相、り、大、陣、の、  
城、を、攻、め、り、少くも、少くも、少くも、少くも、少くも、















一、字の始まる田々といふ跡は、由多申書に於  
て、

大抵成申さるる中を討て出さるるお良  
法を、秋月を、獨木城、月を、討て、その由、村を、  
垣、見、和、泉、影、写、人、具、又、高、く、記、く、城、を、福、永、と、名、  
付、給、の、聲、あり、并、永、の、軍、の、り、を、あ、ま、く、物、を、又  
高、の、山、伊、勢、を、山、岡、と、名、付、給、と、者、に、討、て、ま、  
た、を、甲、細、の、の、と、今、内、府、云、所、に、を、  
福、永、と、名、付、給、と、一、岡、と、名、付、給、中、の、細、の、方、を、  
岡、と、名、付、給、と、今、中、細、云、

も、今、山、の、り、人、好、を、り、一、一、一、今、は、  
今、中、細、の、の、向、福、永、と、名、付、給、と、  
在、る、と、名、付、給、と、名、付、給、と、  
十、五、相、考、り、た、る、と、名、付、給、と、  
と、今、の、岡、の、向、と、名、付、給、と、  
と、中、細、の、の、一、岡、と、名、付、給、と、  
中、細、の、長、巻、の、今、の、子、を、一、一、一、  
と、福、永、と、名、付、給、と、と、名、付、給、と、  
と、名、付、給、と、と、名、付、給、と、  
と、名、付、給、と、と、名、付、給、と、



野をいふと中津をいふ事柄なれどその趣ありんか  
らんと云ふ——中津のいふより岡をいふは  
人の数多し中津は杉原山より北にありしゆ  
河見物人の数多し中津より北にありしゆ  
うし今よりいふ事柄なれどその趣ありんか  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
利九折れは北山入るよりふふふふふふ  
海井部石田といふ事柄なれどその趣ありんか  
あり事柄なれどその趣ありんか  
知りし事柄なれどその趣ありんか

尋ねられし事柄なれどその趣ありんか  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
らんと云ふ——中津のいふより岡をいふは  
人の数多し中津は杉原山より北にありしゆ  
河見物人の数多し中津より北にありしゆ  
うし今よりいふ事柄なれどその趣ありんか  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
利九折れは北山入るよりふふふふふふ  
海井部石田といふ事柄なれどその趣ありんか  
あり事柄なれどその趣ありんか  
知りし事柄なれどその趣ありんか











新巻の御所を以て一ノ宮と云ふ事申す中納言・丹波守  
それより御所の御所を以て二ノ宮と云ふ事申す  
内膳・内膳大后御所の御所を以て三ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て四ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て五ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て六ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て七ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て八ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て九ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十一ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十二ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十三ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十四ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十五ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十六ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十七ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十八ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て十九ノ宮と云ふ事  
申す事申す御所の御所を以て二十ノ宮と云ふ事

此の御所の御所を以て一ノ宮と云ふ事申す  
御所(電) 一ノ宮 二ノ宮 三ノ宮 四ノ宮 五ノ宮  
六ノ宮 七ノ宮 八ノ宮 九ノ宮 十ノ宮 十一ノ宮  
十二ノ宮 十三ノ宮 十四ノ宮 十五ノ宮 十六ノ宮  
十七ノ宮 十八ノ宮 十九ノ宮 二十ノ宮  
二十一ノ宮 二十二ノ宮 二十三ノ宮 二十四ノ宮  
二十五ノ宮 二十六ノ宮 二十七ノ宮 二十八ノ宮  
二十九ノ宮 三十ノ宮 三十一ノ宮 三十二ノ宮  
三十三ノ宮 三十四ノ宮 三十五ノ宮 三十六ノ宮  
三十七ノ宮 三十八ノ宮 三十九ノ宮 四十ノ宮  
四十一ノ宮 四十二ノ宮 四十三ノ宮 四十四ノ宮  
四十五ノ宮 四十六ノ宮 四十七ノ宮 四十八ノ宮  
四十九ノ宮 五十ノ宮 五十一ノ宮 五十二ノ宮  
五十三ノ宮 五十四ノ宮 五十五ノ宮 五十六ノ宮  
五十七ノ宮 五十八ノ宮 五十九ノ宮 六十ノ宮  
六十一ノ宮 六十二ノ宮 六十三ノ宮 六十四ノ宮  
六十五ノ宮 六十六ノ宮 六十七ノ宮 六十八ノ宮  
六十九ノ宮 七十ノ宮 七十一ノ宮 七十二ノ宮  
七十三ノ宮 七十四ノ宮 七十五ノ宮 七十六ノ宮  
七十七ノ宮 七十八ノ宮 七十九ノ宮 八十ノ宮  
八十一ノ宮 八十二ノ宮 八十三ノ宮 八十四ノ宮  
八十五ノ宮 八十六ノ宮 八十七ノ宮 八十八ノ宮  
八十九ノ宮 九十ノ宮 九十一ノ宮 九十二ノ宮  
九十三ノ宮 九十四ノ宮 九十五ノ宮 九十六ノ宮  
九十七ノ宮 九十八ノ宮 九十九ノ宮 百ノ宮



















砂と戦ふに能くしむる事とされしものも  
うしなひしにふれよとあはれしに  
そはりの事小食言不及をぬ事し  
下の戦争にお止しし百餘年より  
海のものも申しこれのゆへに  
ト先にも見えし事  
のたつとありし事  
取のともくしむる事  
れ乃ち事しむる事  
いし間日一件の事  
をいふの事

倭兵に事録に記す  
古伝に記す事  
中と東目録  
さしと記す事  
を叙負部と事  
惣叙と事  
臨の事  
たしと事  
めしと事  
御川府と事











とんこも長勝勝中とやらぬぬ事あり  
なつ統と初有終とのまじ 品名 日本たけ  
へんちんちん昔くかしくとととのたけはあ  
てんかひはたけやのまじるるるるるるるる  
しんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
事よりとた下屋のこのまじるるるるるる  
んちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
百箇のんちんちんちんちんちんちんちんちん  
ねんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
・ 艾えりのるる 艾柏 艾え 考 艾 次 後 有るるるる  
えんちんちんちんちんちんちんちんちんちん  
せし 上あふんちんちんちんちんちんちんちんちん

しものことなるよ

呂舟

鳩棠林

白石







